

# 常位胎盤早期剥離症例に関する調査結果(速報)

## 1 調査目的

都では、母体救命搬送システム及び周産期搬送コーディネーター制度により母体・新生児の救急搬送体制が構築されているが、常位胎盤早期剥離のように、母体の救急であると同時に胎児の状況が悪化する場合や、母体に特段の異常はないものの、胎児の状況が悪化するような、いわゆる「胎児救急」の場合の搬送が課題となっている。

そこで、東京都における常位胎盤早期剥離症例について調査を実施し、その実態を把握することにより、周産期搬送体制の検証や機能向上のための検討の基礎資料とする。

## 2 調査対象施設

(1)都内の総合及び地域周産期母子医療センター:24施設

(2)周産期連携病院:10施設

## 3 調査内容

H22.4.1からH23.3.31までの間に調査対象施設において取り扱った常位胎盤早期剥離(疑いを含む)全症例

## 4 調査方法

調査票の郵送配布、郵送回収により実施

## 5 調査票回収状況

施設区分	配布病院数 (A)	回収数 (B)	回収率 (B/A)	調査票 提出数
合計	34	32	94.1%	270
総合周産期母子医療センター	12	12	100.0%	133
地域周産期母子医療センター	12	10	83.3%	94
周産期連携病院	10	10	100.0%	43

## 6 留意事項

調査票の提出があった270例のうち、双胎の母児(母7例、児14例)を除く256例について検討した。



表1 背景 (n=256)

	搬送症例 n = 71	自院症例 n = 185	p	OR ( 95% CI)
分娩時年齢*	32.8 ± 5.5	33.5 ± 4.6	0.363	
< 20	0 (0.0)	0 (0.0)	0.151	
20 - 24	7 (10.3)	4 (2.2)		
25 - 29	11 (16.2)	33 (17.9)		
30 - 34	22 (32.4)	67 (36.4)		
35 - 39	21 (30.9)	65 (35.3)		
40 - 44	7 (10.3)	14 (7.6)		
> 44	0 (0.0)	1 (0.5)		
不明	3	1		
分娩歴				
初産	28 (41.8)	94 (51.9)	0.156	
経産	39 (58.2)	87 (48.1)		
不明	4	4		
分娩週数*	32.4 ± 4.3	36.0 ± 4.1	< 0.001	
< 34 週	38 (53.5)	34 (18.4)	< 0.001	5.11 (2.82 - 9.29)
< 37 週	60 (84.5)	77 (41.6)	< 0.001	7.65 (3.78 - 15.5)

Values are n (%)

\*mean, SD

常位胎盤早期剥離256例（搬送症例71例、自院症例185例）。

全例では、年齢、分娩歴に差はなく、搬送例の分娩週数が早く、85%が早産であった。

表2 背景 (分娩週数37週未満)(n=137)

	搬送症例 n = 60	自院症例 n = 77	p	OR ( 95% CI)
分娩時年齢*	33.1 ± 5.1	33.6 ± 5.1	0.624	
-19	0 (0.0)	0 (0.0)	0.123	
20 - 24	4 (7.0)	4 (5.2)		
25 - 29	10 (17.5)	12 (15.6)		
30 - 34	10 (33.3)	25 (32.5)		
35 - 39	18 (31.6)	30 (39.0)		
40 - 44	6 (10.5)	5 (6.5)		
45 -	0 (0.0)	1 (1.3)		
不明	3	0		
分娩歴				
初産	20 (35.7)	40 (52.6)	0.054	
経産	36 (64.3)	36 (47.4)		
不明	4	1		
分娩週数*	31.4 ± 3.8	32.4 ± 4.1	0.135	
< 34 週	38 (63.3)	34 (44.2)	0.026	2.18 (1.09 - 4.36)

Values are n (%)

\*mean, SD

37週未満の早産例137例(搬送症例60例、自院症例77例)。

早産例も年齢、分娩歴に差はない。

表3 連絡から搬送までの時間と初発症状 (n=256)

	搬送症例 n = 71	自院症例 n = 185	p	OR ( 95% CI)
連絡時間～分娩時間(分)*	2660 ± 12350	385 ± 960	0.271	
≤ 1hr	5 (13.5)	17 (22.1)		0.55 (0.19 – 1.63)
≤ 2hr	10 (27.0)	30 (39.0)		0.58 (0.25 – 1.37)
≤ 3hr	14 (37.8)	50 (64.9)		0.33 (0.15 – 0.74)
≤ 6hr	24 (64.9)	62 (80.5)		0.45 (0.19 – 1.08)
> 6hr	13 (35.1)	15 (19.5)		2.24 (0.93 – 5.40)
不明	34	108		
初発症状				
出血	34 (47.9)	78 (42.2)	0.408	1.26 (0.73 – 2.18)
腹痛	31 (43.7)	53 (28.6)	0.022	1.93 (1.09 – 3.40)
その他	23 (32.4)	83 (44.9)	0.07	0.59 (0.33 – 1.05)

Values are n (%)

\*mean, SD

連絡から分娩までの(自院症例では発症から分娩まで)時間は前期破水などが含まれているため数週間に及ぶものもあり、十分に解析できない。全例では、3時間以内で区切ると自院症例65%が分娩に至っているのに対し、搬送症例は38%に止まる。

初発症状は搬送症例で腹痛が有意に多い。

表4 連絡から搬送までの時間と初発症状（分娩週数37週未満）(n=137)

	搬送症例 n = 60	自院症例 n = 77	p	OR ( 95% CI)
初発連絡～分娩時間(分)*	3106 ± 13482	433 ± 1250	0.28	
≤ 1hr	5 (16.1)	5 (16.1)		1.00 (0.26 – 3.87)
≤ 2hr	10 (32.3)	9 (29.0)		1.16 (0.40 – 3.43)
≤ 3hr	13 (41.9)	19 (61.3)		0.46 (0.17 – 1.26)
≤ 6hr	21 (67.7)	24 (77.4)		0.61 (0.20 – 1.90)
> 6hr	10 (32.3)	7 (22.6)		
不明	29	46		
初発症状				
出血	26 (43.3)	37 (48.1)	0.582	0.83 (0.42 – 1.63)
腹痛	26 (43.3)	38 (49.4)	0.484	0.78 (0.40 – 1.55)
その他	22 (36.7)	27 (35.1)	0.846	1.07 (0.53 – 2.17)

Values are n (%)

\*mean, SD

早産例では、3時間以内で区切ると自院症例61%が分娩に至っているのに対し、搬送症例は42%で有意差はない。  
初発症状は、早産例では差がない。

表5 分娩場所と分娩様式 (n=256)

	搬送症例 n = 71	自院症例 n = 185	p	OR ( 95% CI)
<b>分娩場所</b>				
自院	70 (98.6)	185 (100.0)	0.277	NA
前医	1 (1.4)	0 (0.0)		
不明	0	0		
<b>分娩様式</b>				
自然経膣	12 (17.4)	51 (28.3)	0.025	0.53 (0.26 – 1.07)
吸引・鉗子	3 (4.3)	20 (11.1)		
予定帝王切開	0 (0.0)	2 (1.1)		
緊急帝王切開	54 (78.3)	107 (59.4)		
不明	2	5		
<b>帝王切開適応</b>				
母体適応	18 (39.1)	22 (29.7)	1.52 (0.70 – 3.30)	
児適応	4 (8.7)	22 (29.7)		
母児適応	24 (52.2)	30 (40.5)		
不明	8	35		

Values are n (%)

全例では、分娩場所は概ね基幹施設。搬送症例の78%が緊急帝王切開（自院症例59%）で有意に増加している。

帝王切開の適応では自院症例で児の適応が多い傾向がある。

表6 分娩場所と分娩様式（分娩週数37週未満）(n=137)

	搬送症例 n = 60	自院症例 n = 77	p	OR ( 95% CI)
分娩場所				
自院	60 (100.0)	77 (100.0)	NA	NA
前医	0 (0.0)	0 (0.0)		
不明	0	0		
分娩様式				
自然経膣	12 (20.7)	13 (17.3)	0.69	
吸引・鉗子	3 (5.2)	5 (6.7)		
予定帝王切開	0 (0.0)	1 (1.3)		
緊急帝王切開	43 (74.1)	56 (74.7)		
不明	2	2		
帝王切開適応				
母体適応	12 (33.3)	16 (41.0)		
児適応	4 (11.1)	9 (23.1)		
母児適応	20 (55.6)	14 (35.9)		
不明	7	18		

Values are n (%)

早産症例では、分娩場所は全て基幹施設。様式、適応に差はない。



表7 分娩転帰(母体) (n=256)

	搬送症例 n = 71	自院症例 n = 185	p	OR ( 95% CI)
胎盤肥厚	16 (22.5)	19 (10.3)	0.011	2.54 (1.22 – 5.28)
ショック	5 (7.0)	3 (1.6)	0.04	4.60 (1.07 – 19.77)
DIC	20 (28.2)	26 (14.1)	0.008	2.40 (1.24 – 4.65)
DICスコア*	9.7 ± 4.9	7.6 ± 2.9	0.144	
抗DIC治療	13 (18.3)	32 ( 17.3)	0.849	1.07 (0.53 – 2.18)
出血	52 (73.2)	119 (64.3)	0.175	1.52 (0.83 – 2.78)
分娩時出血量*	1430 ± 1279	1033 ± 628	0.053	
胎盤後血腫	33 (46.5)	84 (45.4)	0.877	1.04 (0.60 – 1.81)
胎盤剥離	27 (38.0)	47 (25.4)	0.046	1.80 (1.01 – 3.23)
剥離面積*	17.4 ± 28.6	8.8 ± 20.1	0.023	
輸血	17 (23.9)	25 (13.5)	0.044	2.02 (1.01 – 4.01)
輸血量 RCC*	2.3 ± 7.6	0.7 ± 2.5	0.083	
輸血量 FFP*	2.2 ± 6.7	1.1 ± 4.2	0.184	
輸血量 血小板*	1.5 ± 7.9	0.3 ± 2.2	0.215	
CTG異常	20 (28.2)	112 (60.5)	<0.001	0.26 (0.14 – 0.46)
IUFD	19 (26.8)	12 (6.5)	<0.001	5.27 (2.40 – 11.56)
母転帰				
入院	0 (0.0)	0 (0.0)	NA	
退院	70 (100.0)	185 (100.0)		
転院	0 (0.0)	0 (0.0)		
死亡	0 (0.0)	0 (0.0)		
不明	1	0		
母体ICU入院	13 (18.3)	9 (4.9)	0.001	4.38 (1.78 – 10.78)

Values are n (%)

\*mean, SD

全体の検討では、搬送症例で、胎盤肥厚、ショック、DIC、剥離面積、輸血率、IUFD、母体ICU入院が増加し、CTG異常が少なかった。母体死亡は発生しなかった。

表8 分娩転帰(母体) (分娩週数37週未満)(n=137)

	搬送症例 n = 60	自院症例 n = 77	p	OR ( 95% CI)
胎盤肥厚	15 (25.0)	14 (18.2)	0.332	1.50 (0.66 – 3.41)
ショック	3 (5.0)	2 (2.6)	0.653	1.97 (0.32 – 12.21)
DIC	16 (26.7)	14 (18.2)	0.233	1.64 (0.73 – 3.96)
DICスコア*	9.8 ± 5.0	8.0 ± 3.4	0.335	
抗DIC治療	10 (16.7)	11 (14.3)	0.701	1.20 (0.47 – 3.05)
出血	43 (71.7)	46 (59.7)	0.147	1.70 (0.83 – 3.51)
分娩時出血量*	1286 ± 1136	1145 ± 564	0.49	
胎盤後血腫	29 (48.3)	38 (49.4)	0.906	0.96 (0.49 – 1.89)
胎盤剥離	26 (43.3)	17 (22.1)	0.008	2.70 (1.29 – 5.67)
剥離面積*	49.8 ± 30.0	54.4 ± 28.4	0.618	
輸血	12 (20.0)	14 (18.2)	0.788	1.13 (0.48 – 2.65)
輸血量 RCC*	1.2 ± 3.6	0.7 ± 2.2	0.331	
輸血量 FFP*	1.3 ± 3.6	1.0 ± 3.4	0.619	
輸血量 血小板*	0.4 ± 1.9	0.4 ± 2.6	0.876	
CTG異常	18 (30.0)	40 (51.9)	0.01	0.40 (0.20 – 0.81)
IUFD	14 (23.3)	7 (9.1)	0.022	3.04 (1.14 – 8.11)
母転帰				
入院	0 (0.0)	0 (0.0)	NA	
退院	59 (100.0)	77 (100.0)		
転院	0 (0.0)	0 (0.0)		
死亡	0 (0.0)	0 (0.0)		
不明	1	0		
母体ICU入院	11 (18.3)	7 (9.1)	0.112	2.24 ( 0.81 – 6.20)

Values are n (%)

\*mean, SD

早産例では、CTG異常とIUFD発生率に差を認めるに止まっている。

表9 分娩転帰(児) (n=256)

	搬送症例 n = 71	自院症例 n = 185	p	OR ( 95% CI)
児体重*	1836 ± 754	2405 ± 751	<0.001	
< 1000g	13 (18.6)	11 (6.0)	0.002	3.59 (1.52 - 8.45)
< 1500g	25 (35.7)	26 (14.1)	<0.001	3.38 (1.78 - 6.41)
< 2500g	58 (82.9)	92 (50.0)	<0.001	4.83 (2.44 - 9.59)
体重不明	1	1		
臍帯血pH*	7.23 ± 0.17	7.23 ± 0.15	0.874	
< 7.00	3 (6.5)	13 (8.5)	1	0.75 (0.20 - 2.76)
< 7.15	8 (17.4)	27 (17.6)	0.968	0.98 (0.41 - 2.34)
アプガースコア(1分)*	4.6 ± 3.4	6.4 ± 2.8	<0.001	
アプガースコア(5分)*	6.0 ± 3.7	7.8 ± 2.5	0.001	
< 7	24 (35.8)	32 (17.8)	0.001	2.76 (1.46 - 5.20)
< 4	18 (26.9)	17 (9.4)	<0.001	3.73 (1.78 - 7.81)
挿管例	3 (4.5)	1 (0.6)		
不明	4	5		
児転帰			0.001	
入院中	0 (0.0)	0 (0.0)		
退院	50 (71.4)	160 (87.4)		
転院	1 (1.4)	7 (3.8)		
死亡	19 (27.1)	16 (8.7)		3.89 (1.86 - 8.11)
不明	1	2		
児NICU入院	32 (45.1)	51 (27.6)	0.007	2.16 (1.22 - 3.80)

Values are n (%)

\*mean, SD

全体の検討では、搬送症例で、児体重が少なく、低出生体重児が4.8倍、極低出生体重児が3.4倍、超低出生体重児が3.6倍のリスクであった。また、搬送症例で、アプガースコア(5分)7点未満の児(35.8%)が2.8倍、アプガースコア(5分)4点未満の児(26.9%)が3.7倍、NICU入院率(45%)が2.2倍、新生児死亡率(27%)が3.9倍のリスクであった。

表10 分娩転帰(児)(分娩週数37週未満)(n=137)

	搬送症例 n = 60	自院症例 n = 77	p	OR ( 95% CI)
児体重*	1646 ± 648	1802 ± 690	0.182	
< 1000g	13 (22.0)	11 (14.3)	0.24	1.70 (0.70 – 4.12)
< 1500g	25 (42.4)	26 (33.8)	0.304	1.44 (0.72 – 2.90)
< 2500g	56 (94.9)	65 (84.4)	0.053	3.45 (0.93 – 12.83)
体重不明	1	1		
臍帯血pH*	7.24 ± 0.15	7.22 ± 0.17	0.481	
< 7.00	2 (5.1)	8 (14.3)	0.153	0.32 (0.07 – 1.62)
< 7.15	6 (15.4)	10 (17.9)	0.751	0.84 (0.28 – 2.53)
アプガースコア(1分)*	4.8 ± 3.3	5.4 ± 3.0	0.287	
アプガースコア(5分)*	6.3 ± 3.5	7.1 ± 2.6	0.151	
< 7	19 (33.9)	22 (30.1)	0.062	1.30 (0.61 – 2.75)
< 4	13 (23.2)	8 (11.0)	0.01	2.64 (1.01 – 6.93)
挿管例	3 (5.4)	0 (0.0)		
不明	4	4		
児転帰			0.172	
入院中	0 (0.0)	0 (0.0)		
退院	44 (74.6)	62 (81.6)		
転院	1 (1.7)	4 (5.3)		
死亡	14 (23.7)	10 (13.2)		2.05 (0.84 – 5.03)
不明	1	1		
児NICU入院	30 (50.0)	35 (45.5)	0.597	1.20 (0.61 – 2.36)

Values are n (%)

\*mean, SD

早産例では、搬送症例でアプガースコア(5分)4点未満の児(23.2%)が2.6倍のリスクであった。新生児死亡率(23.7%)は2倍のリスクであったが有意差はない。

表11 搬送症例の搬送前後症状の比較 (n=71)

	搬送前	搬送後	p	OR (95% CI)
胎盤肥厚	7 (9.9)	16 (22.5)	0.04	2.66 (1.02 – 6.94)
ショック	2 (2.8)	5 (7.0)	0.44	2.61 (0.49 – 13.94)
DIC	1 (1.4)	20 (28.2)	< 0.001	27.45 (3.5 – 211.2)
抗DIC治療	1 (1.4)	13 (18.3)	0.002	15.69 (1.99 – 123.5)
出血	27 (38.0)	52 (73.2)	< 0.001	4.46 (2.19 – 9.08)
胎盤後血腫	6 (8.5)	33 (46.5)	< 0.001	9.41 (3.61 – 24.51)
切迫早産	21 (29.6)	–		NA
胎盤剥離	–	27 (38.0)		NA
輸血	1 (1.4)	17 (23.9)	< 0.001	22.04 (2.84 – 17.08)
CTG異常	10 (14.1)	20 (28.2)	0.04	2.39 (1.03 – 5.57)
下腹痛	23 (32.4)	–		
IUFD	10 (14.1)	19 (26.8)	0.061	2.23 (0.95 – 5.22)

Values are n (%)

搬送症例全例で搬送前後の状況を見ると、胎盤肥厚、DIC、出血、胎盤後血腫が搬送後に増加し、抗DIC治療や輸血といった処置の施行率が増加している。また、児の状況ではCTG異常、IUFDが2倍以上に増加した。

表12 常位胎盤早期剥離と診断された搬送例の搬送前後症状の比較 (n=31)

	搬送前	搬送後	p	OR (95% CI)
胎盤肥厚	7 (22.6)	11 (35.5)	0.263	1.89 (0.62 – 5.77)
ショック	2 (6.5)	3 (9.7)	1	1.55 (0.24 – 10.01)
DIC	0 (0.0)	13 (41.9)	< 0.001	NA
抗DIC治療	0 (0.0)	9 (29.0)	0.004	NA
出血	17 (54.8)	24 (77.4)	0.06	2.82 (0.94 – 8.48)
胎盤後血腫	6 (19.4)	17 (54.8)	0.004	5.06 (1.62 – 15.78)
切迫早産	3 (9.7)	–		NA
胎盤剥離	–	11 (35.5)		NA
輸血	0 (0.0)	12 (38.7)	< 0.001	4.46 (2.19 – 9.08)
CTG異常	8 (25.8)	8 (25.8)	1	1 (0.32 – 3.12)
下腹痛	18 (58.1)	–		NA
IUFD	8 (25.8)	13 (41.9)	0.18	2.08 (0.70 – 6.09)

Values are n (%)

搬送症例71例中、搬送前に早剥と診断されたか疑われたものは31例で、搬送により、DIC、胎盤後血腫が増加し、抗DIC治療や輸血率が増加した。IUFDは2倍程度増加する傾向であった。

表13 発症から分娩までの時間と母体DIC発症、CTG異常、児死亡の発生率 (n=106)

時間	n	DIC(率)	CTG異常(率)	児死亡(率)
1時間以内	22	1 (4.5%)	15 (68.2%)	1 (4.5%)
1-2時間	18	5 (27.8%)	10 (55.6%)	2 (11.1%)
2-3時間	24	9 (37.5%)	12 (50%)	4 (16.7%)
3-4時間	5	2 (40%)	1 (20%)	1 (20%)
4-5時間	10	2 (20%)	6 (60%)	2 (20%)
5時間以上	27	5 (18.5%)	7 (25.9%)	7 (25.9%)

搬送、自院例を含む時間経過の明らかな106例

発症から分娩までの時間経過とともに児死亡率が増加する傾向がある。

## まとめ

- ・常位胎盤早期剥離256例中搬送症例71例、自院症例185例であった。
- ・搬送症例の多くは早産で、出生児の管理が搬送理由のひとつと推察される。
- ・母体死亡は発生しなかったものの、搬送症例で、ショック、DIC、母体ICU入院が増加しており、搬送中に母体状況が悪化すると推察された。搬送症例の約80%が帝王切開になることも大量出血、DIC発症を助長する要因となる。
- ・搬送症例で、低出生体重児が4倍以上、新生児仮死発生率、NICU入院率ともに2倍以上で、新生児死亡率は約4倍であった。
- ・早産児137例で比較した場合、搬送症例で新生児死亡率が約2倍であった。



## 常位胎盤早期剥離症例に関する調査票

医療機関名

## 母体・新生児情報（全事例共通）

分娩日時	年	月	日	時	分
分娩時週数	週（ <input type="checkbox"/> 推定）		年齢	歳	<input type="checkbox"/> 初産 <input type="checkbox"/> 経産
初発症状	<input type="checkbox"/> 出血 <input type="checkbox"/> 腹痛 <input type="checkbox"/> その他（ ）				
	連絡日時（患者から訴えのあった日時） 年 月 日 時 分 ごろ				
分娩様式	<input type="checkbox"/> 経膈分娩（ <input type="checkbox"/> 吸引 <input type="checkbox"/> 鉗子 <input type="checkbox"/> 自然）				
	<input type="checkbox"/> 帝王切開（ <input type="checkbox"/> 緊急 <input type="checkbox"/> 予定）（適応： <input type="checkbox"/> 母体 <input type="checkbox"/> 児 <input type="checkbox"/> 母児）				
	<input type="checkbox"/> 前医で分娩⇒下表で分娩様式を記入してください。				
母児の状況	<input type="checkbox"/> 胎盤肥厚	<input type="checkbox"/> 胎盤後血腫	<input type="checkbox"/> CTG異常	<input type="checkbox"/> IUFD（子宮内胎児死亡）	
	<input type="checkbox"/> ショック	<input type="checkbox"/> 剥離面積（ %）	<input type="checkbox"/> 母体ICU入院	<input type="checkbox"/> その他	
	<input type="checkbox"/> DIC（産科DICスコア 点	<input type="checkbox"/> 抗DIC治療		[ ]	
	<input type="checkbox"/> 出血（ ml）	<input type="checkbox"/> 輸血（ ml）	<input type="checkbox"/> 出生児のNICU入院		
母転帰	<input type="checkbox"/> 入院中 <input type="checkbox"/> 退院 <input type="checkbox"/> 転院 <input type="checkbox"/> 死亡				
出生体重	g				
アプガースコア	点/1分	点/5分	点/10分	臍帯動脈血pH	
児転帰	<input type="checkbox"/> 入院中 <input type="checkbox"/> 退院 <input type="checkbox"/> 転院 <input type="checkbox"/> 死亡 <input type="checkbox"/> 前医で分娩⇒下表で転帰を記入してください				
その他特記事項					

母体・新生児搬送事例については、  
下記についてもご記入ください。

## 母体・新生児情報（搬送事例のみ回答）

母体搬送日時	年	月	日	時	分	病着
搬送に関する情報	種別	<input type="checkbox"/> 転院	<input type="checkbox"/> スーパー母体救命搬送（ <input type="checkbox"/> 産前 <input type="checkbox"/> 産後）			
		<input type="checkbox"/> 一般通報	<input type="checkbox"/> 都周産期コーディネーター依頼（ <input type="checkbox"/> 母体 <input type="checkbox"/> 新生児 <input type="checkbox"/> 母児）			
	搬送元（医療機関名、自宅等）					
前医の診断名						
搬送前の状況	<input type="checkbox"/> 胎盤肥厚	<input type="checkbox"/> 胎盤後血腫	<input type="checkbox"/> CTG異常	<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> ショック	<input type="checkbox"/> 切迫早産	<input type="checkbox"/> 下腹痛	[ ]		
	<input type="checkbox"/> DIC（産科DICスコア 点	<input type="checkbox"/> 抗DIC治療				
	<input type="checkbox"/> 出血（ ml）	<input type="checkbox"/> 輸血（ ml）	<input type="checkbox"/> IUFD（子宮内胎児死亡）			
分娩様式（前医で分娩の場合）	<input type="checkbox"/> 経膈分娩（ <input type="checkbox"/> 吸引 <input type="checkbox"/> 鉗子 <input type="checkbox"/> 自然）					
	<input type="checkbox"/> 帝王切開（ <input type="checkbox"/> 緊急 <input type="checkbox"/> 予定）（適応： <input type="checkbox"/> 母体 <input type="checkbox"/> 児 <input type="checkbox"/> 母児）					
児転帰（前医で分娩の場合）	<input type="checkbox"/> 入院中 <input type="checkbox"/> 退院 <input type="checkbox"/> 転院 <input type="checkbox"/> 死亡					
回答日	年	月	日	回答者		